

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

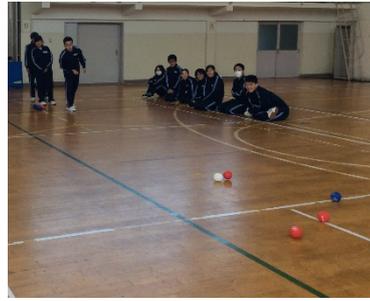
- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立いわき支援学校くぼた校 】

1 実践テーマ	I・III・IV・V								
2 実施対象者	福島県立いわき支援学校くぼた校 対象学年：全生徒 生徒数：31名								
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① ①(教科名) 保健体育 ) ② ②(行事名) 講演会 ) ③ ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① ① イベント名 ( ) ② ② その他 ( )								
4 目標 (ねらい)	(1) パラリンピックや障がい者スポーツの理解を深め、多様性の理解を図る。 (2) 障がいのある者（くぼた校生徒）と障がいのない者（勿来高等学校生徒）が、スポーツを通して、互いに人格と個性を尊重し支え合い、相互に認め合える、豊かな人間性の育成を目指す。								
5 取組内容	(1) くぼた校・勿来高等学校の意見交換会議の実施 ア 日時 令和元年7月10日（水） イ 内容 ・ 推進テーマの決定： 「パラリンピックと障がい者スポーツをとおしての多様性の理解」 ・ 事業計画の検討及び実施日についての日程調整  (2) 講義「オリンピック・パラリンピック競技の理解」の実施 ア 日時 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">くぼた校</th> <th colspan="2">勿来高等学校</th> </tr> <tr> <th>1年1組</th> <th>1年2組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年 12月 3日（火） 8:55~9:45</td> <td>令和元年 12月 9日（月） 14:25~15:15</td> <td>令和元年 12月 9日（月） 10:55~11:45</td> </tr> </tbody> </table> イ 対象 いわき支援学校くぼた校：第1学年 「保健体育」（11名） 勿来高等学校：1学年1・2組 「保健体育」（50名） ウ 内容 「オリンピック、パラリンピックの概要及びボッチャ競技」について エ 方法 くぼた校教員による講義 ※ 勿来高等学校生徒については、くぼた校教員による出	くぼた校	勿来高等学校		1年1組	1年2組	令和元年 12月 3日（火） 8:55~9:45	令和元年 12月 9日（月） 14:25~15:15	令和元年 12月 9日（月） 10:55~11:45
くぼた校	勿来高等学校								
	1年1組	1年2組							
令和元年 12月 3日（火） 8:55~9:45	令和元年 12月 9日（月） 14:25~15:15	令和元年 12月 9日（月） 10:55~11:45							

前授業形式での実施



(3) 外部講師による講演会の実施

ア 令和元年12月12日(木) 13:15~14:45

イ 対象 いわき支援学校くぼた校 全生徒(31名)

勿来高等学校 全生徒(148名)

ウ 内容 「パラリンピック競技の理解について」

エ 講師 公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会

増子 恵美 氏

丸山内雄大 氏



(4) 講義・実技指導の実施「ボッチャ競技の理解」

ア 日時

	くぼた校	勿来高等学校	
		1年1組	1年2組
第1回	令和元年 12月11日(水) 14:25~15:15	令和元年 12月12日(木) 11:55~12:45	令和元年 12月13日(金) 9:55~10:45
第2回	令和元年 12月16日(月) 11:55~12:45	令和元年 12月16日(月) 11:55~12:45	令和元年 12月16日(月) 10:55~11:45

イ 対象 いわき支援学校くぼた校：第1学年 「保健体育」(11名)

勿来高等学校：1学年1・2組 「保健体育」(50名)

ウ 内容 第1回「ボッチャについて講義・実技指導」

第2回「試合形式による実技(交流及び共同学習)」

くぼた校1学年、勿来高等学校1年1組

エ 方法 くぼた校教員による講義・実技指導

※ 勿来高等学校生徒については、くぼた校教員による出前授業形式での実施

※ 「試合形式による実技」については、くぼた校と勿来高等学校1年1組の交流及び共同学習とし、両校生徒による混合チームを編成して実施



## 6 主な成果

### (1) 各実践から

- 「多様性の理解」をテーマに、昨年度から継続して、くぼた校が併設されている勿来高等学校と、「保健体育」における交流及び共同学習を柱に両校合同で実施した。それにより、両校の生徒たちが互いの良さに気づき、かかわり合いながら、互いに人格と個性を尊重し合い、協力して活動しようとする態度を育むことができた。  
また、勿来高等学校では、「ボッチャ」競技が定着し始め、授業での障がい者スポーツの指導に加え、体育祭の種目への追加も検討されるようになり、パラリンピック種目や障がい者スポーツが生涯スポーツとして捉えられ始めた。
- パラリンピック元代表選手を講師に迎えて、くぼた校・勿来高等学校の合同で講演会を実施し、ボッチャ競技の実技指導や障がい者理解についての内容の講話を行ったことで、両校の生徒共に、パラリンピックや障がい者スポーツについての理解が深まった。また、様々な障がいや個性のある人たちが、それぞれの形で競技に取り組んでいること、多くの支えがあって障がい者スポーツが成り立っているという話を聞き、「多様性」を理解する事の大切さに気が付くことができた。さらに、勿来高等学校の生徒については、障がい者への理解と共生社会の理解を深める機会となった。
- ボッチャ競技の講義・実技の授業、特に試合形式による実技では、両校生徒による混合チームを編成して実施したことで、互いの良さに気付く良い機会となり、チームの一員として、自然とコミュニケーションや協力をしながら活動することができた。

### (2) アンケートの結果から

- 本事業の実施後に、両校の1年生を対象にアンケート調査を実施した。  
※ 実施日 : 令和元年12月19日(金)  
※ 内容 障がい者スポーツに関するアンケート
- アンケート結果では、くぼた校生徒の9割は「ボッチャを知っている」「やったことがある」と回答したのに対して、勿来高等学校の生徒の9割は「聞いたことはある」「知らなかった」と回答した。体験後、勿来高校の半分の生徒がボッチャの授業をとおして「すごく満足した、もっとやりたい」という意見が多かった。また、両校ともパラリンピックへの関心も高まったという意見が多く、「誰でも楽しめる」「もっと色々な人にやってほしい」と障がい者スポーツの魅力に気付くことができた。
- 生徒の自由記述から、両校とも「またやりたい」「もと交流がしたい」という意見が多くあり、互いの良さについて理解を深めることができた。また、「ボッチャは誰でもできる」「誰とでも楽しめる」とパラリンピックや障がい者スポーツへの理解も深まり、生徒たちの関心も高まった。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の実施にあたり、スポーツ・障がい者スポーツをとおした共生社会の形成、そして実現という本校の目的があったことから、外部講師による講演会では、講演内容については「多様性の理解」キーワードに講演を依頼した。</li> <li>実際の講演では、「障がい者」の生活の困難さや、障がいをもつ人への接し方や支援の仕方等、実体験をもとに説明していただき、理解を深めることができた。また、両校の生徒が試合形式でのボッチャの体験を行ったことで、かかわりが生まれ、互いを意識するいい機会となった。</li> </ul>
8 主な課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>くぼた校側（障がいのある者）の視点では、今回の事業で、スポーツを通して、他者に関心をもつことに繋がったように感じる。また、障がいへの理解啓発を深めることができた。しかし、「関わりたい」という気持ちが高まった反面、接し方が分からないなどコミュニケーション面での課題が挙げられた。コミュニケーション能力を高めることに加え、自らの課題を解決する力を高めることが重要となるため、様々な教育活動と連携を図るとともに、自分たちがボッチャを教える立場として、地域の小中学生との交流の機会も検討の必要がある。</li> <li>勿来高等学校側（障がいのない者）の視点では、パラリンピックや障がい者スポーツに対する関心が高まり、昨年度と比較して、「もっと交流したい」という感想も増えたが、障がい者について知る機会が少なく、今後は、交流及び共同学習の機会を増やすことや、両校の連携をさらに深め、共生社会の実現に向けた学習の充実が必要であると感じる。 今回、両校の体育科の教師が中心となり授業を行ったが、普段から共生社会の形成及び実現に向けて、両校教師が研修する機会を設けて充実を図ることで、両校の生徒それぞれに対してより深まりある指導が実践できると考える。</li> <li>本事業を実施することで、オリンピック・パラリンピックを身近に感じ、興味や関心も高まってきたが、今後は自分たちが学んだ事を生かす、障がい者スポーツの普及や理解啓発に向けて、どう参画していけるか手段や方法を具体的に示し、実現できるよう指導していくことも必要だと感じる。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度以降も勿来高等学校との交流及び共同学習を柱に、継続して実施するとともに、地域との交流の幅も広げていく。</li> <li>障がいのある者（くぼた校生徒）と障がいのない者（勿来高等学校生徒）が、より互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合う態度や豊かな人間性の育成が図れるように、指導を充実させる。</li> <li>障がい者スポーツの理解啓発に向け、地域の小中学生向けに自分たちで企画したボッチャの紹介の映像を作成する。</li> </ul>